

丹南地域環境研究会 SAET 10年の歩み

- 地域の水環境を次世代に -

丹南地域環境研究会 事務局 奥村 充司

地域社会が健全に発展するためには、単に各個人が物質的に量的な満足・豊かさを追求するだけでは駄目で、自然、人間関係、地域の歴史・文化・伝統等、精神的な面を含めて生活の質の向上を図り、心身共に健康に快適に暮らせる環境をその地域の時空間に積極的に求め、造り、育て、守り次の世代に引き継いで行かねばならない。環境問題は専門多岐に亘り多様な価値観の解釈を集積して、初めて解決しうる複雑な要素を含むものである。そこで、有志が集い、相互に刺激・啓発されつつ誓いを深めることにより各自の知識の幅を拡げ、向上させて地域住民の核となり快適環境の創出に力を合わせることを願い、丹南地域環境研究会（STUDIES GROUP OF AMENITY ENVIRONMENT IN TANNAN AREA）が1988年2月に設立された。この会は うるおい や やすらぎ のある快適な生活空間を創造していくことが、これからの大きな課題となっていることを背景に、地域の特性や環境を構成している要素を生かし、快適な環境づくりについて研究活動を推進し、地域の知恵と情熱をもって、真に豊かな《ふるさと創生》に寄与することを目的としている。その目的達成のため、地域の快適な環境づくりに関する学習・調査・研究・提言などの事業を行ってきた。本会の研究地域は、主として丹南地域（武生市・鯖江市・今立町・池田町・南条町・今庄町・河野村・朝日町・宮崎村・越前町・織田町）である。現在、会員数は64名であり、水分科会、住分科会、緑・オープンスペース分科会、防災分科会からなる。各年度の研究活動の成果は研究会誌「SAET」にまとめられ、1990年3月に第1号が発行され、昨年度10周年を迎えた。

水環境問題への取り組み

KJ法による水環境分科会のテーマ選定を行った。その中で発言の多かったものは 水に和する 水資源 防災 融雪 公共投資の順であった。とくに親水ゾーンの整備に関して活発な意見が出された。その中で今後の活動の方向付けがなされた。この時期には「武生の町用水」の現状や農業用水の歴史としての「ため池散策」などのテーマで地域と水との関わりを調査した。

地下水汚染

丹南地域を流れる九頭竜川水系日野川周辺には田園風景が広がっている。近年、兼業農家が多く若者の働き場所として様々な企業を誘致してきた。その中には、いわゆるハイテク産業も含まれ、地下水汚染問題が潜在化していた。しかし、その問題が明らかになったのは全国的にはかなり遅く、昭和60年代に入ってからであった。この調査から10年以上経った今でも、新たな汚染が見つかり続けている。調査は各地区の区長に採水作業をお願いして、地域住民を巻き込む形で実施した。汚染は少なくとも5つの工場周辺で見いだされた。また、汚染の広がりについても明確にし、全くモニタリングされない地域に対しても飲用しないように指導をするなど一応の成果はあった。

河川環境マップの製作

（ふるさと日野川 - 新しい水辺の発見と感動 - ）

この事業は、日野川流域において、会員全員参加によって展開されたものである。平成3年に鯖江市から今庄町まで、日野川の水辺に沿ってサイクリングロードが整備された。この施設を有効に活用し、市民の親水活動の一助になるようにとポケットサイズのエコマップを製作す



写真1 河川環境マップ
—新しい水辺の発見と感動—



写真2 環境に関するイベントでのパネル展示風景

ることとなった。はじめに、「ふるさと日野川探検隊」を結成し、魚類、野鳥、植物、昆虫、歴史・文化の各班に分かれて週末や休日を利用して調査を実施した。これらの調査にはそれぞれ地元の専門家の指導を仰いだ。地元の人材発掘はこのような地域限定型事業には不可欠であり、この地域をよく知る専門家の存在は頼もしい限りであった。また、魚類調査においては日野川漁業協同組合の積極的な協力を頂いた。一連の作業は決して一過性のものではなく、数年おきに実施されるべきものである。適切な指導者の元で行われたこのような調査は、環境アセスメントを実施すべき事業において、その基礎的資料となりうることは十分に考えられる。調査は四季を通じて1年間行われた。その作業は、日々の職務に追われながらのボランティア活動でまかなわれたが、一同団結して楽しい日々でもあった。幸い、(財)河川環境管理財団から河川環境整備基金を頂き、また、武生ロータリークラブからも寄付を頂いた。これらは作成したマップ1万部の費用に充てられ、丹南地域の

小中学生に配布された。このマップのあとがきには「スピードを競って汗を流すだけではなく、家族・知人と共に野鳥や蝶、とんぼ、四季折々の野の草花に目を止めながらゆっくりと走るのも心が和んで良いものです。水ぬるむ季節には自転車を降り、川に入って浅瀬で水生生物の観察や、のんびりと岸辺に腰を下ろして魚釣りなども楽しいことです。また、サイクリングロードから少し足を延ばして、歴史文化の散策も意外と楽しい感動を呼ぶものです。」とある。これは、次の時代をになう子供たちに日野川の河川環境を保全し、手渡していくということが我々の義務であり、川は汚く危険なものとして「水辺から遠ざけられた世代」へのメッセージでもあった。

名水を科学する

ミネラルウォーター、ボトルドウォーターのブームが起きてしばらく経つが、今なお、その人気は衰え知らずである。環境庁が日本列島百名水を選定し、水の文化とおいしい水についての関

丹南地域環境研究会 SAET 10年の歩み - 地域の水環境を次世代に -

丹南地域環境研究会 事務局 奥村 充司

心を高めている。こうしたブームを生む原因となる各地の水道水に対する不信感と水環境汚染が顕在化している。幸いにも、福井県では、水質面での水道水不信の深刻な問題も少ない。このことが却って地域住民の水質に対する無関心をもたらし、自分自身が飲んでいる水の水質について詳しく知らない。安心して飲める水が豊富にあることは有り難いが都市水道であろうと家庭の井戸水であろうと浄水過程が無い、または、シンプルなのは原水汚染に対しての防御力が皆無であることに留意しておく必要がある。阪神・淡路大震災を契機として、もし、何らかの事故、災害で飲み水が枯渇した時、どのような水が近くから得られるか、簡易浄水法はじめ湧水の質・量等を知っておく必要があると考え調査を実施した。これを健康指標により表示し、各名水巡りと併せて朝日新聞の地方版に連載された。それぞれ、歴史的にも重要な水の遺産であり、今後も地域での保全・保存が望まれる。

八幡のフケ保存活動

平成9年度水分科会の活動は昨年以上に活発なものとなった。とくに「八幡のフケ」の活動においては単に研究という枠を越えて市民運動、行政への提言というレベルでの活動となった。また、行政機関等（武生市、国高公民館、鯖江市）から様々な依頼を受けるようになり、当会の普段の活動が、今静かに広く理解されつつあることを感じた。今回の活動は、福井県環境基本条例の制定を受けて、武生市が県内に先駆けて、「環境基本計画」を策定することとなったことに端を発する。とくに、「日野川」を中心とした水環境を地域の個性を特徴づけるものとして位置づけることで、市民参加・先進性・独自性を前面に打ち出した。これは、一般市民が



写真3 生態調査に先駆けて、ゴミ捨て場と化していたフケの掃除



写真4 地域の副区長宅での八幡のフケ水族館の展示



写真5 フケの魚を見て歓喜する地域の子供たち

らなる環境チェッカーの基本調査からも「残すべき身近な自然」としてあげられている。そして、「八幡のフケ」も日野川の旧河道の跡として「水の歴史」の一つと考えられる。しかし、日野川治水のための河道掘り下げによって、湧水は止まり、現在は、農業用水の流れ込む池となっている。このように、治水工事で平行して多くの湧水が失われてきた。したがって、この池を保存・保全する意義を別に求めざるを得ない。現在は本会の発案で用水と池を水路橋によってつなぎ修景保存し、日野川との連続性を維持した。これにより、多様な魚相を維持し、タイクバラタナゴなどの産卵場所ともなっている。さらに、メダカの自生も確認され、近くの小学校の自然観察ゾーンとしての整備を提言し、武生市では、これを契機に各小学校や地区でメダカの飼育を通してメダカの生態について学習すると共に生き物を愛し慈しむ心を養うために積極的に取り組んでいる。

村国山ビオトープづくり

本研究会が出来てから十周年を迎える年となった平成11年度は記念事業として「村国山のビオトープづくり」を実施した。旧スキー場斜面からの湧水を利用し、斜面の緑化修景を検討していた「たけふ市民の森ワークショップ」と協同して、地区の都市公園の整備事業として実施したものである。本研究会では、次世代のための「水辺環境の創造」を目的に、武生市から補助を受けて、計画・施工し、市へ寄贈した。とくに、村国山の生態系との連続性を考慮し、水温の異なる3つの池を工夫するなど、今後、各小学校区に整備される予定のビオトープのモデルケースとなった。

最後に、曲がりなりに続いてきた本研究会の



写真6 村国山ビオトープの建設作業風景



写真7 1年後のビオトープ生態調査と植樹風景

諸活動が地域の環境問題に色々な提案を投げかけ、地域住民の環境に対する意識の啓発に役立って来た。何より「継続は力なり」を信念として地域の為に活動が続けて行く事が肝要であると考えている。

丹南地域環境研究会 SAET 10年の歩み - 地域の水環境を次世代に -

丹南地域環境研究会 事務局 奥村 充司

表 - 1 丹南地域環境研究会のこれまでの水環境に関する主たる事業

事業名	目的	実施場所	実施期間	成果
丹南地域地下水汚染調査と解析	トリクロロエチレンによる地下水汚染の調査・解析と警告を行う	武生・鯖江市の日野川西部地域	1989～1990年度	地下水汚染防止に関する学会発表した(SAET1,2号)
日野川河川環境マップ製作	ふるさと日野川の水辺生き物と文化・歴史を携帯できる冊子、マップにし、地域の子供たちに環境教育の場とする	鯖江市から今庄町までのサイクリングロードに沿った水辺	1993～1994年度	マップ一万部作成、地域の小・中学生に配布、(財)河川環境管理財団より基金助成、武生ロータリークラブから支援頂く
丹南地域の名水調査	名水を科学する健康によい水を探る	丹南地域一円	1996～1997年度	朝日新聞に連載された(SAET 7号)
八幡のフケの修景保存	身近に残された生き物の環境をビオトープとして残し市民の環境意識を啓発する	武生市八幡町	1997年度から継続	調査報告を武生市長および地元住民に提案、他の環境保全活動団体、行政と意見交換、残す方向で技術的検討した
村国山ビオトープづくり	デザインコンペ・施工工事をボランティアで実施する。子ども達の生き物観察の場として提供する	武生市押田町	1998～1999年度生態調査継続中	市民の森ワークショップとの共同作業による都市公園でのビオトープ創造した